井上 道義の 未来だった今より

♪ 仏VS.日

すでにGWの定番となっている金沢のラフォルジュルネも来年は6年目。びわ湖、新潟でも3年目になるが、企画する側は毎年毎年同じ問題で頭を抱えている。それは音楽祭総元締のルネ・マルタン側からのソリストの名前や人数、プログラムの確認などがセッツイテモ、セッツイテモ遅延するのだ。

日本側は文化庁の予算を得るために細かい見積を要求され、終われば結果の照らし合わせがあるから当然セッツク。しかし毎年フランス側は改善できない、しない。彼に言わせると、後からもっといいアイデアが出てくることが多いし、1年先のプログラムを固めてしまうクラシック業界そのものがオカシイとも言う。ルネは若い頃は当日までプログラムを決めなかった世紀のピアニスト、リヒテルのマネジャーから出発した人だからなのか？

以前、建築家の安藤忠雄さんが、東大教授を頼まれたときに外国では全く要らない膨大な経歴書類などを書かされる上、報酬がいくらだか決められていなかったと書いていた。多少それに似ていると感じていたところ、都内の代々木上原で100席ほどのコンサートホールを運営している家内の珠世が「もう！　チェンバロ奏者テシュネさんったら毎回毎回プログラムがギリギリまで決まらないし、誰が出るかもセッツイテモ知らせない！　これじゃチラシも作れない！　でも結局は面白い公演になるから続けていただいているけど……イライラ」とボヤくのを聞き苦笑した。そのテシュネさんはフランス人。中国人やロシア人相手でも似たりよったり。日本人だけがどうも異常に細かくないか？　うう～ん、あなたはどちら側につきますか？

（オーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督）

いしかわ 金沢大学探訪 [16]

「なぎさドライブウェイ」として人気が高い羽咋市～宝達志水町約8キロにまたがる千里浜海岸。世界で3カ所しかない、車用車で走行可能な浜辺だが、近年は年間1メートル程度の割合で浜幅が減少、1986年には均91メートルあった砂浜は06年には71メートルにまで後退した。研究者たちが砂の流出を防ぐ手だてを考えている。

千里浜の砂は、手取川から流出された砂が対馬暖流に乗って北上したものだ。粒の直径の細かいものほど沖合に出てより遠くまで輸送されるため、千里浜